



赤木かん子の

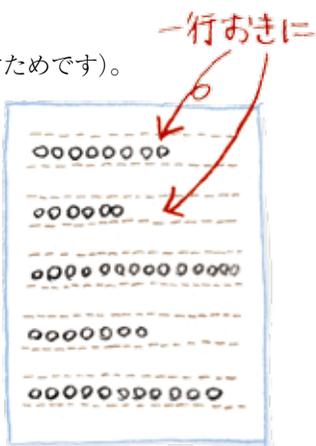
「図書館を利用した “調べ学習”のしかた」>> 上級編

前は、百科事典を使ったテーマの決めかたをお話ししました。
では今回、ラスト！「集めた情報をどうまとめるか」です。

紙は A4 を縦に。文章は横書き、左揃え。

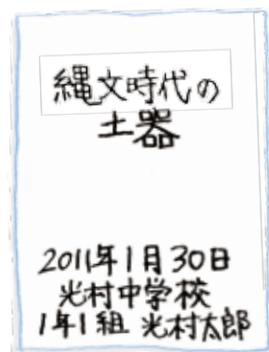
そうして、本文は一行おきに書きます（これは間違えたときに書き直すためです）。

鉛筆は不可。これは、誰かに勝手に改ざんされるのを防ぐためでしたが、パソコン全盛の今となってはあまり意味がないかも。
ですが、消えない筆記具で清書していないレポートは通常不可です。



1 枚目は、表紙

ここにレポートの題名と自分の所属、名前をはっきり書きます。
すみっこに小さく書くのはダメ！



2 枚目は目次

レポートが5枚しかなければ必要ありませんが、30枚もあるのなら、つけたほうが読んでくれる人に対して親切でしょう。

もちろんこれは、いちばん最後に書きます。
最後にならないと、わかりませんからね。

3 枚目は序論

ここで必要なのは3つ。

- (1) 課題のテーマ
- (2) その中から選んだ自分のテーマ
- (3) そのテーマを選んだ動機

ここにはこの3つしか、書いてはいけません。

4 枚目からは本論

ここには「調べてわかったことだけ！」を書きます。自分の意見は書いてはいけません。

5 番目は結論

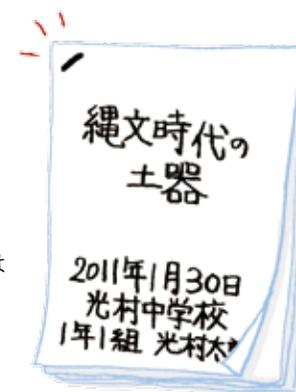
ここには調べてわかった具体的な事実を使い、自分の考えを述べます。根拠のない想像はダメです。
感想を書いてもいけません。

6 番目は参考文献リスト

調べるのに使った本の出典を書きます。

著者「題名」出版社、発行年月日、参考にしたページ
というふうに書きます。

出典に使うデータは、本の後ろ（前のこともあります、たいていは後ろです）の「奥付」に載っています。



7 最後に表紙の左上をなにかで止めます

レポートも論文も、基本は、なにか謎を提出し、それを解明する、
というパターンです。

つまり、構成はミステリーと同じですね。

しかし、論文とレポートの違いは、

論文は、いままでだれも考えたことのないこと……つまり人類の知の宮殿に貢献するような新しい
ことを提出しなくてはならないけれど、

レポートは、出された課題に対して、今までに誰かが研究して見つけたこと……から答えを見つけ
てくればいいのです。

もちろん中学生にもなると、たとえば自分の街の商店街の調査、のような、まだ誰も研究してい
ないようなこと、もできなくはないので、この違いは微妙ですが、中学生の段階では、世界に向かっ
て新しい学説をのべる必要はないでしょう。

中学校では、レポートそのものの内容よりも、何も知らなかった生徒が、

**課題を理解し、そのテーマに沿ってどうやって調べればいいのかを考えられるようにし、
結論を出せるように段階を経て訓練することが目的です。**

だから、教師は、どんな能力をつけさせたいかを明確に把握して課題そのものを考えないとなりま
せん。

また、結論に、いわゆる“感想”を書かせてはいけません。

あくまでも、レポートは根拠のある結論でなくてはいけないので、根拠のない、想像や願望や感想
は必要ないのです。

どうしても書かせる必要があるのなら、最後にもうひとつ“感想”という別ページをもうけて書い
てください。